

Korean Patent Application No. 10-2004-50106  
Your Ref.: 131025-M200  
Attachment Page 6

(Excerpted Translation of Cited Reference 3)

- (19) [Publication country] Japan Patent Office (JP)
- (12) [Kind of official gazette] Registration utility model official report (U)
- (11) [Registration number] No. 3054499
- (24) [Registration date] September 16, Heisei 10 (1998)
- (45) [Publication date] December 4, Heisei 10 (1998)
- (54) [The name of a design] Pan covering for revolving sushi
- (51) [International Patent Classification (6th Edition)]
  - A47G 19/26
  - 19/00
  - 19/02
- (21) [Application number] Application-for-utility-model-registration Taira 10-4247
- (22) [Filing date] May 30, Heisei 10 (1998)
- (73) [Utility model right person]
  - [Identification Number] 592143046
  - [Name] Oguro Industries
  - [Address] 1593, Nakazonemachi, Iyomishima-shi, Ehime-ken
- (72) [Designer]
  - [Name] Ishikawa Tadahiko
  - [Address] 1593, Iyomishima-shi, Ehime-ken Inside of Oguro Industries
- (74) [Attorney]
  - [Patent Attorney]
  - [Name] Fujimoto English husband
- [Utility model registration claim]
- [Claim 1] While the lower part side of a tubed peripheral wall is opened, in preparation for one, upper part lock out is carried out and the upper wall is formed in the upper part side. The margo inferior of this tubed peripheral wall is equipped with a flange. From the verge of this flange caudad The hanging-down wall which engages with the verge of a peak pan is equipped, and that upper limb is formed in bulky rather than the top face of said upper wall, and a protruding line is formed in the periphery of a upper wall, and said tubed peripheral wall is the periphery section top face of this upper wall. Pan covering for revolving sushi characterized by forming in a skid side the part where the yarn end of a peak pan is in contact along with this periphery section by radial predetermined width of face.

**BEST AVAILABLE COPY**

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11)実用新案登録番号

第3054499号

(45)発行日 平成10年(1998)12月4日

(24)登録日 平成10年(1998)9月18日

(51)Int.Cl.<sup>4</sup>  
A 47 G 19/28  
19/00  
19/02

優先配号

FI  
A 47 G 19/28  
19/00  
19/02

V  
F

評価書の請求 未請求 請求項の数 8 (全 13 頁)

(21)出願番号 実願平10-4247

(22)出願日 平成10年(1998)6月30日

(73)実用新案権者 582143046

大田工業株式会社

愛知県伊予三島市中曾根町1583番地

(72)考案者 石川 忠彦

愛知県伊予三島市中曾根町1583番地 大田

工業株式会社内

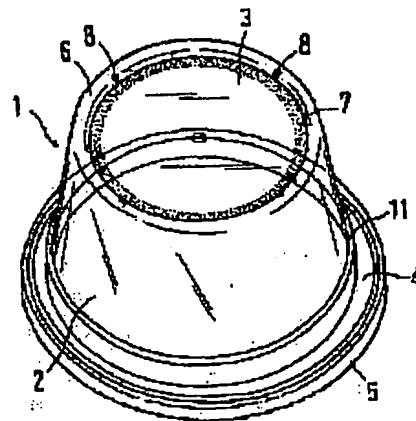
(74)代理人 弁理士 藤本 英夫

(54)【考案の名称】 回転着可用皿カバー

(57)【要約】

【課題】 現状のラインのままで、その盛り皿の積載量を少なくとも2倍、また、それ以上に増量できるようにする。

【解決手段】 下方開放で、上方側は上壁3を一体に備えて上方閉塞されて形成された円筒状の周壁2の下縁に鍔部4が備わっている。この鍔部4の辺縁から下方に、盛り皿9の辺縁に係合される垂れ下がり壁5が一体に備わっている。また、前記周壁2はその上縁が前記上壁3の上面よりも嵩高に形成され、上壁周縁に突条6が形成される。この上壁3の周縁部上面で、盛り皿9の糸尻が当接される部位が、所定の幅でこの周縁部に沿って滑り止め面7に形成されている。



1--皿カバー  
2--周壁  
3--上壁  
4--鍔部

5--垂れ下がり壁  
6--突条  
7--滑り止め面

8--通気孔  
9,91--盛り皿  
11--段部

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 筒状の周壁の下方側が開放されるとともに、上方側には上壁を一体に備えて上方閉塞されて形成されている、この筒状の周壁の下縁には銑部が備わり、この銑部の辺縁から下方に、盛り皿の辺縁に係合される垂れ下がりが備わり、また、前記筒状の周壁はその上縁が前記上壁の上面よりも高急に形成されて上壁の周縁に突条が形成され、かつ、この上壁の周縁部上面で、盛り皿の糸尻が当接される部位が、半径方向所定の幅でこの周縁部に沿って滑り止めの面に形成されていることを特徴とする回転寿司用皿カバー。

【請求項 2】 前記滑り止め面は、皮しば、水玉などの模様、あるいは剝地の浅い凹凸で形成されている請求項 1 記載の回転寿司用皿カバー。

【請求項 3】 前記筒状の周壁の下部近くには、積み重ねられたとき、前記銑部の内縁が載置されるに足る、半径方向外方に向かって張り出した段部が形成されている請求項 1 記載の回転寿司用皿カバー。

【請求項 4】 前記段部は、前記筒状の周壁の周方向全周にわたって形成されている請求項 3 記載の回転寿司用皿カバー。

【請求項 5】 前記上壁周縁と筒状の周壁との境部には、周方向所定間隔を置いて複数個の通気孔が穿設されている請求項 1 乃至請求項 4 のいずれかに記載の回転寿司用皿カバー。

【請求項 6】 少なくとも前記銑部と、この銑部の辺縁

から下方に、盛り皿の辺縁に係合される垂れ下がりが壁とにわたって、前記筒状の周壁の周方向少なくとも一か所に、指挿入用の切欠きが形成されている請求項 1 記載の回転寿司用皿カバー。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本考案回転寿司用皿カバーの第 1 の実施の形態を例示した全体の外観図である。

【図 2】 図 1 に示される回転寿司用皿カバーの中央縦断面図である。

【図 3】 図 1 に示される回転寿司用皿カバーの作用を示す説明図である。

【図 4】 図 1 に示される回転寿司用皿カバーの作用を示し、搬送ベルト上に載置された状態の説明図である。

【図 5】 図 1 に示される回転寿司用皿カバーの作用を示し、皿カバーの多段積層状態を示す説明図である。

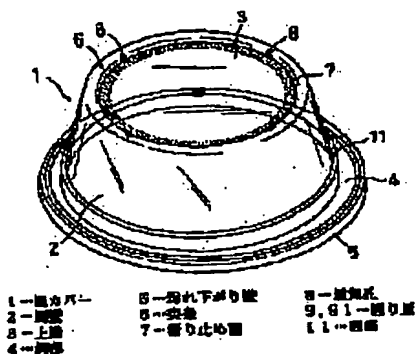
【図 6】 本考案回転寿司用皿カバーの第 2 の実施の形態を例示した全体の外観図である。

【図 7】 図 6 に示される回転寿司用皿カバーの作用を示す説明図である。

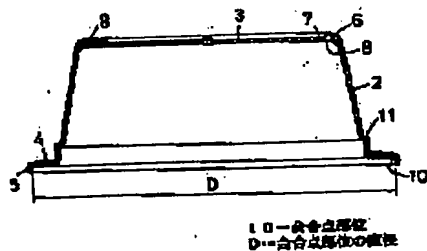
【符号の説明】

1…皿カバー、2…筒形の周壁、3…上壁、4…銑部、5…垂れ下がりが壁、6…突条、7…滑り止め面、8…通気孔、9、9'…盛り皿、10…会合点部位、11…段部、12…搬送ベルト、13…切欠き、D…会合点部位の直径。

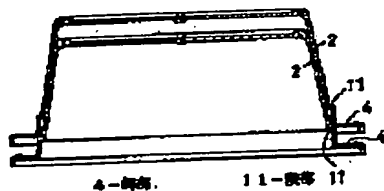
【図 1】



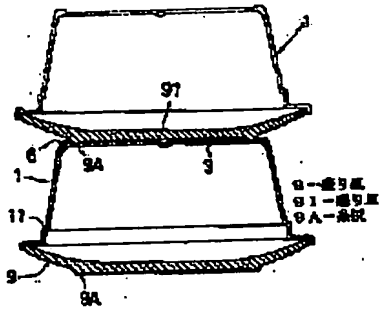
【図 2】



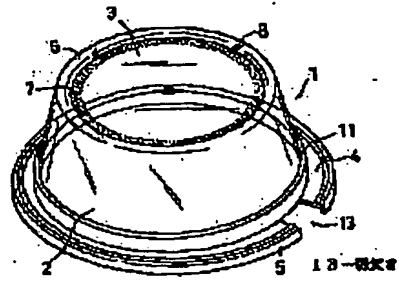
【図 5】



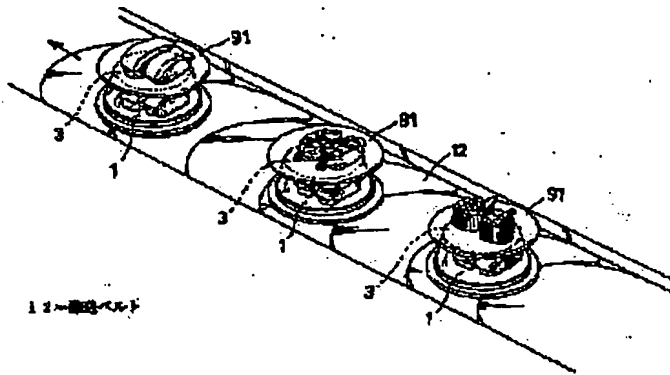
【図3】



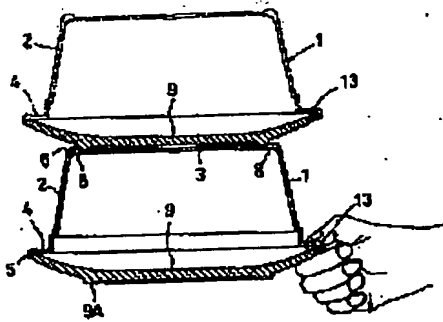
【図6】



【図4】



【図7】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【考案の属する技術分野】

本考案は、回転寿司用の皿カパー、更に詳しくは、回転寿司屋において、搬送ベルト（回転ベルト）に載せられて、客席と厨房間を巡回している寿司の盛り皿を覆うために使用される回転寿司用皿カパーに関する。

【0002】

【従来の技術】

この種回転寿司用皿カパーは、言うまでもなく盛り皿に盛られた寿司を衛生的に、また、不用意な乾燥を防止して、可能な限り握りたてと同様の、新鮮な状態のままで提供することが重要である。このような配慮から、回転ベルト上に載せられた盛り皿に被せられる。

【0003】

周知のとおり、回転寿司は、価値感や気配に入れる、食べれるなど種々の要因が幸いして、近年爆発的な人気で、老若男女を問わず、いつも活況を呈しているのが現状である。

【0004】

【考案が解決しようとする課題】

ところで、このあまりの人気に、多くの店では、潜在的にラインを増設（搬送ベルトを延長したり、今一つ搬送装置を設置したり）して、顧客の要望に応えたいと考えている。

しかし、このラインの増設には、なによりも膨大な設備投資が要求される。すなわち、千万単位のライン購入費用の他にも、施設床面積を確保する費用なども必要になり、現実問題としてラインの増設はなかなか困難な問題である。

【0005】

この問題を何とか解消する意図をもって従来なされてきた手段の一つに、ライン上により沢山の盛り皿を載せることである。

しかし、この手法では、隣り合う盛り皿の周縁同士が重なりあってラインの動きと共に、特にカーブの部位などでは、ガチャガチャと騒がしく騒音を発してい

る。視覚、聴覚両面から、少なくとも食事をする場として好ましい情景とは、とても言いにくいのが現状である。

【0006】

このようにな現状を踏まえ、業界内では、出来るだけ低コストで、多数の顧客にスピーディー、しかも単位時間当たりより多くの量を提供でき、併せて見た目にも整理整頓されていて、かつ、軽々しさも解消できる、スマートな手段が要望されている。

【0007】

本考案は、この従来の手段の欠点を解消するために種々研究の結果発案されたものである。したがって、現状のラインのままで、その盛り皿の積載量を少なくとも2倍、また、それ以上に増量できるようにすることを課題とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】

請求項1に記載の考案は、筒状の周壁の下方側が開放されるとともに、上方側には上壁を一体に備えて上方閉塞されて形成されていて、この筒状の周壁の下縁には鈎部が備わり、この鈎部の辺縁から下方に、盛り皿の辺縁に係合される垂れ下がり壁が備わり、また、前記筒状の周壁はその上縁が前記上壁の上面よりも高きに形成されて上壁の周縁に突条が形成され、かつ、この上壁の周縁部上面で、盛り皿の系尻が当接される部位が、半径方向所定の幅でこの周縁部に沿って滑り止め面に形成されたものである。

【0009】

この手段によれば、既存の搬送ベルト上に、図3、図4に示されるように、盛り皿を載置し、その上から皿カバーを被せ、更にこの皿カバーの上壁上にいま一枚の盛り皿を載置して使用される。つまり、既存のライン上に、少なくとも二段重ねにして盛り皿を載置できる。

【0010】

この場合、前記鈎部の辺縁と、そこから下方に垂れ下がった垂れ下がり壁との会合点部位（コーナー）が、盛り皿の周縁上に載置されることになり、皿カバーは、一度目の盛り皿上にしっかり、かつ、横ずれしたりする恐れなく、安定良く

載置保持される。

【0011】

そして、この筒状の周壁の上縁が前記上壁の上面よりも嵩高に形成されて上壁の周縁には突条が存在するように形成され、また、上壁には滑り止めの面が備わっている。このことによって、この皿カバーの上壁上面に載置された今一つの盛り皿は、不用意に傾ずれする恐れがなく、安定的に、その載置姿勢が保たれる。したがって、この皿カバーの上壁の上に更にいま一枚の盛り皿を、うまく載置することができるようになった。

【0012】

同様にして、この二段目の盛り皿に、更に皿カバーを被せることによって、3段重ねができ、必要に応じて更に好みの段数に重ねることができることは、言うまでもない。搬送ベルト上に載置される個数としては、安定性などを考慮すると2段重ねが理想的で、必要に応じて3段重ねが限度である。ただし、顧客に提供する時の段階であって、厨房内のテーブルなどの上に予備的に載置される場合は、4段、5段の重ねおきが可能である。

【0013】

上記の皿カバーは、一般的に回転寿司に使用される盛り皿が圧倒的に丸皿であることから、円筒形の外観を備えて形成されたものを主体とするが、必ずしも円筒形である必要はなく、盛り皿の角形や楕円など形状に合わせて、種々の形状が採用される。

【0014】

したがって、この考案は次の効果を有する。

搬送ライン上には盛り皿を安定良く、少なくとも二段重ねで載置できるから、既存のラインのままで、ライン上に載置できる盛り皿の量を単純計算でも2倍にできる。その結果、膨大な設備投資も不要で、廉価に導入できる。また、隣り合う盛り皿同士が重なりあってラインの動きと共に、特にカーブの部位などでは、ガチャガチャと騒がしく音を立てることもなく、視覚、聴覚両面からも大変好ましい環境が得られる。その結果、低コストで、多数の顧客にスピーディー、しかも単位時間当たりより多くの量を提供でき、併せて見た目にも整理解整されてい

て、かつ、堅牢さも解消できる、スマートな手袋を提供できるに至った。

【0015】

請求項2に記載のとおり、前記滑り止め面を形成するにあたっては、...、皮しぼ、水玉などの模様、あるいは刻地の浅い凹凸の内のいずれかが採用される。

この滑り止め面は、盛り血の横ずれを防止することもさることながら、盛り血の糸尻によって、血カパーの上壁が不用意に傷つき、清潔感が削がれるのを予め防止するためにも設けられている。したがって、盛り血の糸尻が当接する部位、つまり上壁周縁部に限って形成されるのが理想的で、一筋目、あるいは二筋目の盛り血に盛り込まれた品が見にくくなるおそれがない。

【0016】

請求項3、また、請求項4に記載の考案は、前記筒状の周壁の下部近くには、積み重ねられたとき、前記罅部の内縁が載置されるに足る、半径方向外方に向かつて張り出した座部が形成されたものである。この座部は、必要に応じて筒状の周壁の周方向の複数個所に断続的に設けられたり、全周にわたって設けられたりする。

図4に示されるように、血カパー同士を多座に積み重ねた際に、上下に隣合う前記罅部の間に指先が挿入できる間隙が形成されるようにし、一つずつの血カパーを素早く取れるようにするためである。

【0017】

また、請求項5に記載の考案は、上壁周縁と筒状の周壁との境部に、血カパーの内外を連通する通気孔が設けられたものである。

この通気孔は、この上壁上面に載置された今一つの血カパーによって不用意に閉塞される恐れがなく、血カパー内をうまく大気圧に保持する。

盛り血と血カパーが不用意に密着して、血カパーが取りにくくなるのを防止したり、血カパー内面に水蒸気が付着しすぎるのを防止したりするためである。

【0018】

請求項6に記載の考案は、少なくとも前記罅部と、この罅部の辺縁から下方に、盛り血の辺縁に係合される垂れ下がり壁とにわたって、前記筒状の周壁の周方向少なくとも一か所には、指挿入用の切欠きが形成されたものである。



この指挿入用の切欠きは、これに親指を挿入し、人指し指と親指との間で盛り血の周縁を簡便に把持できるようにするためである。血カバーを被せたまま、片手でも、盛り血を簡便に、かつ、うまく把持できるようにするためである。

【0019】

【考案の実施の形態】

次に本考案の実施の形態について図面を参照して説明する。

（第1の実施の形態）

図1～図5は、本考案回転寿司用の血カバーの第1の実施の形態を示す。

血カバー1は、図示されるように、やや錫広がり状の円筒形の周壁2の下方側が開放されると共に、上方側には上壁3を一体に備えて上方閉塞されて形成されている。この円筒状の周壁2の下縁には、この血カバー1の半径方向外方に向かつて水平姿勢で突設される頸部4が備わり、この頸部4の辺縁から下方に、盛り血9の辺縁に係合される垂れ下がり壁5が備わっている。また、前記円筒状の周壁2はその上縁が前記上壁3の上面よりも嵩高に形成されて上壁3の周縁に突条6が形成されている。更に、この上壁3の周縁部上面で、盛り血9の糸尻9'Aが当接される部位を含んで、半径方向所定の幅がこの周縁部に沿って滑り止め面7に形成されている。

【0020】

前記血カバー1は、透明な合成樹脂、例えばポリスチレンを素材にして、インジェクションにより一体成形されている。

【0021】

前記滑り止め面7は、例えば皮しぼ、水玉などの模様が付されたり、あるいは梨地の浅い凹凸（シボ）で形成されている。この滑り止め構造は、予め金型に形成されていて、血カバー1がインジェクションによって一体成形されるときに同時に形成される。

【0022】

前記円筒状の周壁2と上壁3の周縁と境部には、周方向所定間隔を置いて複数個（図例では90度位相を異ならせて4個）の通気孔8が穿設されている。

この通気孔8は、前記円筒状の周壁2と上壁3の周縁との境部に設けられること

によって、図3に示されるように、この上壁3上面に載置された今一つの盛り皿91で閉塞される恐れがなく、皿カバー1内をうまく大気圧に保持する。盛り皿9と皿カバー1が不用意に密着して、皿カバー1が取りにくくなるのを防止したり、皿カバー1内面に水蒸気が付着しすぎるのを防止したりするためである。

【0023】

前記窪部4の辺縁と、そこから下方に垂れ下がった前記垂れ下がり壁5との会合点部位10（コーナー）の直径0が、盛り皿9の直径と同等もしくはやや大径に寸法設定されている。

このことによって、図3に示されるように、盛り皿9に被さる皿カバー1は、この盛り皿9の周縁上にうまく嵌合される。したがって、皿カバー1は、盛り皿9上にしっかり、かつ、傾ずれしたりする恐れなく、安定良く載置保持される。

【0024】

また、前記上壁3の周縁に形成されている突条6と、この上壁3の周縁部上面に形成される前記滑り止め面7とによって、一底目の皿カバー1の上壁3上面に載置される今一つの盛り皿91が、不用意に傾ずれする恐れもなく、安定的に、その載置姿勢が保たれる。したがって、この皿カバー1の上壁3の上に、更にいま一枚の盛り皿91をうまく載置することができるようになった。

併せてこの滑り止め面7は、上に載置される今一つの盛り皿91の糸尻9Aによって、皿カバー1の上壁3が不用意に傷つけられ、清潔感が削がれるのを予め防止する。したがって、盛り皿9、91の糸尻9Aが当接する部位、つまり上壁3周縁部に限って形成されるのが理想的で、一底目、あるいは二底目の盛り皿9、91に盛り付けられた寿司が見にくくなる恐れがない。

【0025】

前記円筒状の周壁2の下部近くには、張出す法が前記窪部4の内縁が載置されるに足るように寸法設定されて、半径方向外方に向かった張り出した段部11が形成されている。この段部11は、図1、図5に示されるように、円筒状の周壁2の全周にわたって設けられている。

【0026】

また、図示しないが、この段部11は、必要に応じて円筒状の周壁2の周方向

の複数個所に断続的に設ける手段に代替させることもできる。

【0027】

図3に示されるように、皿カパー1同士を多段に積み重ねた際に、上下に隣合う前記窪部4の間に指先が挿入できる間隔が形成されるようにし、一つずつの皿カパー1を素早く取れるようにするためである。

【0028】

以上のように形成された皿カパー1は、図3に示されるように、寿司が盛り付けられた一層目の盛り皿9に被され、次いでこの皿カパー1の上壁3上に、寿司が盛り付けられた二層目の盛り皿91が載置される。このとき、必要に応じて、この二層目の盛り皿91にも皿カパー1が被されてもよい。このようにして、皿カパー1によって、複数段重ねにされた盛り皿9、91が、図4に示されるように、搬送ベルト12上に載置され、順次顧客の前に提供されてゆく。

【0029】

搬送ベルト12上は、いつも複数段重ねの盛り皿9、91が載置されて回転するので、従来の搬送ベルトをそのまま使用しながら、盛り皿9、91の載置量を単純計算にしても一単に少なくとも2倍にすることができる。また、図4に示されるように、盛り皿同士の間に通宜の間隔が得られて、隣り合う盛り皿9の周縁同士が重なりあって搬送ベルト12の動きと共に、特にカーブの部位などで互いにぶつかり合って騒音を発生する恐れもなく、見た目にもすっきりとした載置環境が得られる。

【0030】

したがって、視覚、聴覚両面から、少なくとも食事をする場として好ましい雰囲気を得られる。また、低コストで、多数の顧客にスピーディー、しかも単位時間当たりより多くの量を提供でき、併せて見た目にも整理整頓されていて、かつ、騒々しさも解消できる、スマートな手段を提供できる。

【0031】

(第2の実施の形態)

図6、図7は、本考案回転寿司用の皿カパーの第2の実施の形態を示す。

この第2の実施の形態では、特に皿カパー1が被さった盛り皿9、91を、片

手の親指と人指し指で、より簡単に把持できるようにする意図で発案されたものである。皿カバー全体の形状、構造は、前記第 1 の実施の形態と同様である。したがって、前記第 1 の実施の形態と同様の構造、形状を備えた部位には図 1～図 5 と同一の符号を付して、その具体的な説明は省略する。

【0032】

具体的な構成について説明すると、図 6 に示されるように、少なくとも前記部 4 から垂れ下がりが壁 5 にわたって、その周方向一箇所に親指を挿入でき、直に盛り皿 9、91 の辺縁に触れることができるに足る大きさの切欠き 13 が形成されたものである。

【0033】

この切欠き 13 は、必要に応じて前記部 11 にわたって形成されても良い。親指の挿入をより一層簡単にして、盛り皿 9、91 の周縁の把持をより確実にできるようにするためである。

【0034】

したがって、図 7 に示されるように、皿カバー 1 が被されたままでも、この切欠き 13 に親指を挿入して、これを盛り皿 9、91 の周縁上面にあてがい、人指し指は盛り皿 9、91 の周縁下面にあてがうことによって、盛り皿 9、91 の周縁を直接に把持できるようになる。このようにして、盛り皿 9、91 は、皿カバー 1 が被されたままでも、親指と人指し指で、より一層簡単に把持でき、搬送ベルト 12 から手元に、片手でたやすく取り寄せることができる。

【0035】

尚、上記各実施の形態で示される皿カバー 1 は、一般的に回転寿司に使用される盛り皿が圧倒的に丸皿であることから、円筒形の外觀を備えて形成されたものを例示したが、必ずしも円筒形である必要はなく、盛り皿の角形や楕円など形状に合わせて、種々の形状が採用される。

【0036】

更に、前記部 11 は、上記のとおり、皿カバー 1 が多座に積み重ねられている状態から、一つ一つを取るのに大変有効な手段であり、採用されるのがより望ましい。しかし、必要に応じて採用されればよい。したがって、円筒状の周壁 2

が図部 4 まで単一のテーパ一面で形成された構成も採用できる。

【提出日】平成 10 年 6 月 19 日

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正内容】

【0020】

前記血カバー 1 は、透明な合成樹脂、例えばポリスチレンやアクリルを素材にして、インジェクションにより一体成形されている。

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ ~~FADED~~ TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ ~~LINES~~ OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**